

発明者	星野愷	出願 昭 33.5.22	特願 昭 33-14196
同	並河守	東京都世田谷区玉川奥沢町1の462	
同	柄原重三	東京都大田区久ヶ原町664	
出願人	東京電気化學工業株式会社	川崎市二子610	
代理人弁理士	中松潤之助外2名	東京都千代田区神田松住町2	

(全3頁)

## 磁気録音シートの消磁装置

## 図面の略解

図面は本発明磁気録音シートの消磁装置の実施態様を示すもので第1図は全体斜視図、第2図は縦断側面図、第3図は縦断正面図、第4図は配線図、第5図は本発明装置に応用される安全装置の一例を示す部分斜視図である。

## 発明の詳細なる説明

本発明は磁気録音シートの消磁操作において高磁性を有する磁気録音の消去磁石の磁束が外部に漏洩し例えは腕時計、附近に置いてある重要録音シート等に悪影響を及ぼす事のない様な絶対安全な消磁装置を得んとするものである。すなわち磁気録音シートの面にそつて摺動する消磁磁石が一端に位置する時は磁石の磁束は誘導路を通り外部に磁束を漏洩することなく、磁石を移動する時は必ず扉を開く事が要件となり從つて磁束は前記扉を介して導通路を形成して外部への漏洩磁束を遮蔽するものである。

次に本発明の詳細を図面に示す実施例について詳細に説明する。

箱体3には磁界の導通路を形成し得る材料より成る扉4が蝶番5で取付けられていて箱体3の中底15上に載置される磁気録音シートSをばね17並に押片18で圧し得る様になつてゐる。中底15の一端縁例えは22(他方の端縁22'及び22の両端縁でもよい)を磁石6を遮蔽する閉磁路に構成した磁束誘導体に形成する。而して磁石6は台8に取付けられ、この台8は案内レール12にそつて箱体3内においてハンドル10で摺動し得るものである。

永久磁石を用いる磁気録音消去器では、第2図のような構造において、装置の最右端に永久磁石の台8があるときのみ扉4が開きうるように、第5図の如く構成しておくとよい。説明上22なる磁束誘導体はこの図には書いてないが、第5図の状態では、台8(この上に消去用の永久磁石がのつているが、記していない)が22なる誘導体の直下にある状態を示す。

すなわち台8を図の状態におくと、台8の構成した突起部30が鋸止片31の下端を押す。鋸止片31は軸32を支点として箱体3に取付いている金具33で支えられており、3の上端は鍵状になつていて、蓋4に取付いている金具34とかみ合うようになつてゐる。35は板バネで鋸止片31の下方を箱3に対して遠ざけるように力が加わる。

いま台8が図の位置にあるときは、金具34、31は鍵部がはずれているので、蓋4は自由に開くが、台8が消去操作の途中にあるときは金具34、鋸止片31の上部の鍵部とがか

み合つて蓋は開かない。そのために、第2図の誘導体22以外のところに永之磁石があるときは、蓋4は開かず、危険な漏洩磁束は外にもれない。而して前記の台8が第5図示の位置にあるときは、蓋4は鍵がはずれて自由に開き、しかもそのときは第2図の22なる磁束遮蔽体で磁束が箱の外に出ることが著しく制限されるので腕時計をした人でも操作を安全に行えられる。

なおこの際蓋を開いているときは、台8が第5図の如き装置の端右より動かないようにしておけば、第2図の装置において、操作は一層安全になる。すなわち第5図において、37は鋸止片で軸38を支点として金具39で箱体3に取付いている。40はスプリングで、鋸止片37の下端を矢印41の方向に押しており、台8には切込み41'があつて、金具37の下端が図の如く嵌合しうるようになつてゐる。

又蓋4には突起42があつて、蓋を閉じると42の先端は鋸止片37の上部44を押すようになつてゐる。それで蓋4を開いているときは、台8は鋸止片37の下端で係止されていて動かないが、蓋4を閉じているときは、金具42が44を押すので、鋸止片37の下端は台8の切込み41よりはずれて、係止作用がなくなるので、台8は移動できる。

第4図は交流電磁石6'を用いる場合のもので本発明装置に更に扉4の開閉で作用するスイッチ20と押ボタンスイッチ19を直列に配設したものである。

この様に本発明は第5図全体の機構の総合により、台8が第2図の如き装置の一端縁にあるときのみ、蓋4が開き、そのときは外部に漏洩磁束は殆んど全くもれずに、使用者は保護される。そして蓋を開いている限り、たとえ、第2図のハンドル10を誤つて引こうとしても、永久磁石は動かないで安全である。

そして蓋が閉じていると、磁石は動き、必要な消磁操作が行えられるが、このときはたとえ誤つて蓋を開こうとしても、蓋は開かない。

以上の如く、消去器になれていない人が用いても、腕時計に対する磁界の悪影響を除くことができ、また消去器の近傍にある重要録音済みのシートの録音レベルに悪影響を与えることがないような、安全にして実用価値の高い消去器が得られる。

第5図は安全機構の一例を示したものであり、本発明の精神を失わない限り、その他の機構を用いてもよい。

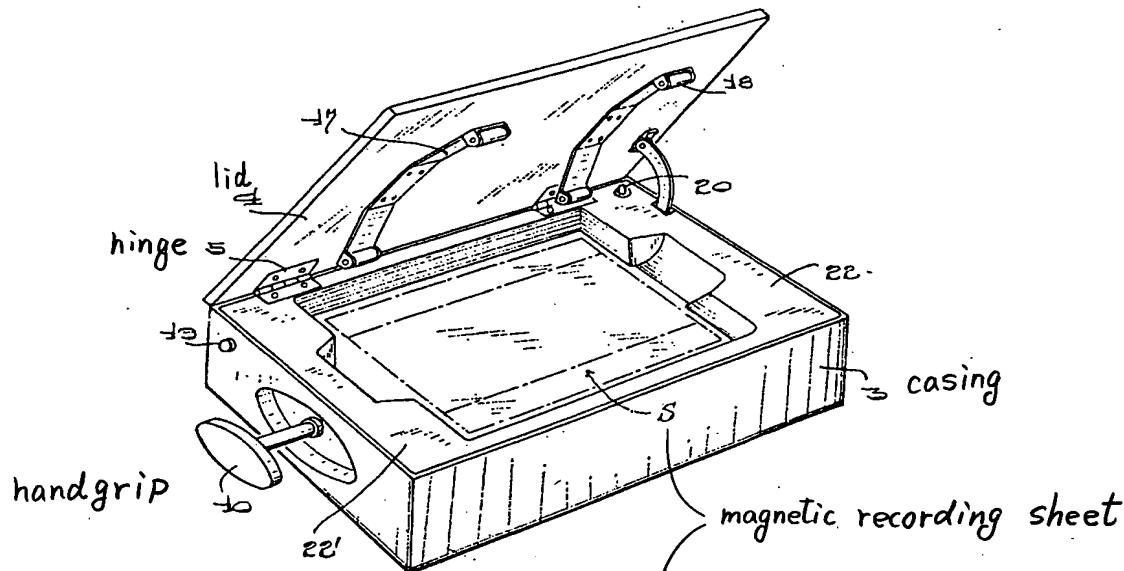
## 特許請求の範囲

箱体に磁性材より成る扉並に箱内に同質材の磁束誘導体

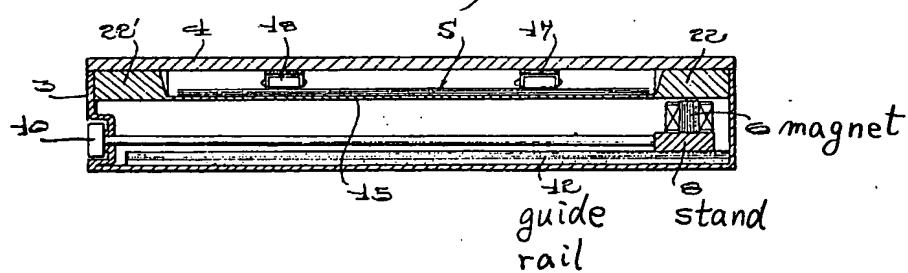
と箱外よりの操作で箱内を摺動自在の磁気録音消磁石を設けると共に箱内部において箱体と扉間並に箱体と磁石間を係止する錠止片を設けて磁石が磁束誘導体により、その発生する磁束を外部に漏洩しない状態の時は扉の開放を自由とし、扉の開放時には磁石の摺動は箱体に係止されて不可能とし、磁石が磁束誘導体外に位置する時は扉の開放は不

可能であり、又、扉が閉じられた時は扉により箱体と磁石との係止が外れて摺動自在とし、箱体と蓋とは係合が行われて扉の開放を不可能として磁束誘導体外の磁石摺動位置に面しておかれれる磁気録音シートを漏洩磁束の弊害なしに安全に消去し得る様にした磁気録音シートの消磁装置。

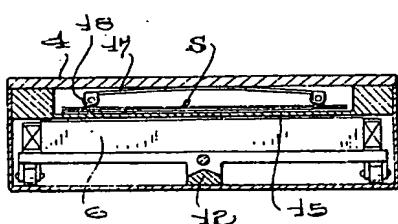
第1図



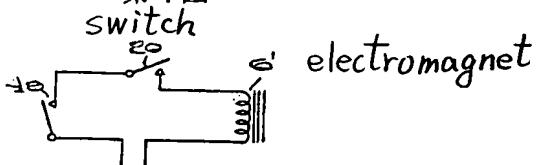
第2図



第3図



第4図



第5図

